

新型コロナ「第11波」の襲来 お盆休みを健康に過ごすためには

8/8 志賀隆・国際医療福祉大医学部救急医学主任教授（同大成田病院救急科部長）



新型コロナウイルスの感染者増加を受けて警戒を呼び掛ける福岡県の担当者＝福岡市博多区で2024年7月18日午後3時9分、城島勇人撮影

2019年暮れから始まった新型コロナウイルスの流行では、夏や冬の屋内で過ごすシーズンに感染が拡大する傾向があります。これには、これらのシーズンでは冷房や暖房で換気がなかなか難しいことが関係していると考えられます。今夏も7月から新型コロナウイルスの感染が全国で急拡大し、第11波といえる状況になっています。厚生労働省によると、7月22～28日の1定点医療機関当たりの患者数は14.58人で、12週連続で増加しています。当院が位置する印旛地域（千葉県成田市周辺）では、6月に定点当たり10人前後だった患者数が、7月は15人を超えています。人の移動や交流が活発化のお盆休みに向けてどのような対策をとればよいのかを考えたいと思います。

7月に入り全国的な流行状況に

私が勤務する救命救急部門にも連日、新型コロナ感染疑いの人が搬送されてきます。先日は、人工透析を受けている70代の男性が自宅で意識がもうろうとして動けなくなっているのを家族が発見し、搬送されました。調べてみると、コロナ陽性でした。また、炎天下で作業中に動けなくなった60代男性は、熱中症にコロナ感染症を併発していました。

のどが痛くて発熱したので調べてみたら「新型コロナだった」という例も多くあります。暑さ対策でエアコンを使うようになって、高齢者の方が発熱で動けない、体調不良とこのことでコロナの検査をしたら「やはり陽性」ということもあります。応急処置をしてなんとか家に帰る方もいますが、「歩けない」「食べられない」という人も多く、あっという間に病室が埋まりつつあります。

現在の日本の流行株は KP. 3 が主

コロナウイルスの株は刻々と変化しています。24年6月時点で世界各地で流行拡大しているのは、22年初めに登場したオミクロン株からさらに変異した「オミクロン KP. 3 株」「オミクロン LB. 1 株」「オミクロン KP. 2. 3 株」です（以下、「KP. 3」などと表記）。

https://www.ims.u-tokyo.ac.jp/imsut/jp/about/press/page_00289.html

このうち日本では昨冬に第10波を起こしたオミクロン JN. 1 株（JN. 1）の子孫株である KP. 3 が流行しています。JN. 1 はそれまでの BA. 2 よりも免疫機構をかいくぐる能力が高いとされました。そこから変異した KP. 3 株は、JN. 1 株よりもさらに高い感染力があることが研究で報告されているので、より注意が必要です。

もちろん、これらのオミクロンの子孫株によっても肺炎などは起きますのですが、その発生頻度は20～21年に流行したアルファ株、デルタ株と比べると大分減っています。

<https://www.cdc.gov/mmwr/volumes/71/wr/mm7104e4.htm>

ワクチンを打っている健康な方の場合、咽頭（いんとう）痛や発熱、せきなどが主な症状で、軽症に抑えられます。



新型コロナウイルス感染症の5類移行を受けて、透明の飛沫（ひまつ）防止フィルムを撤去する成田国際空港会社のスタッフら＝千葉県成田市の成田空港で2023年5月8日、中村宰和撮影

https://www.tmph.metro.tokyo.lg.jp/lb_virus/worldmutation/

ワクチンの効果はどうか？

新型コロナウイルスは23年5月に5類に移行し、感染判明時に入院勧告されるようなことはなくなりました。しかし現在でも、感染すれば出勤できなくなったり、学校に行けなくなったりとさまざまな制約が生じます。なるべくコロナウイルスにかかりたくないのは今も変わらないでしょう。そんな中で重要な予防策なのがワクチンです。コロナウイルスの株が次々と変異する現在、ワクチンはどれくらい有効なのでしょう。

ウイルスの株を現在流行している株に更新したワクチンを追加接種した場合の効果は、以前の株を用いたままのワクチン接種に比べて、最新の変異株に対して高い効果が得られることが、ヒト免疫原性データの2次解析から分かっています。

またJN.1ワクチン候補を用いたヒト免疫原性試験の成績が出ています。これは、単一の臨床試験の結果ですが、以前主流を占めたXBB.1.5株や関連するワクチン抗原と比べて、KP.2に対してより高い中和抗体を産生する可能性が示唆されています。

<https://www.niid.go.jp/niid/images/idsc/iasr/45/532.pdf>

<https://www.who.int/news/item/26-04-2024-statement-on-the-antigen-composition-of-covid-19-vaccines>

これらからすると、オミクロン株対応ワクチン未接種の方は接種を受けた方がよいでしょう。

5類移行により、新型コロナワクチンの無償接種は終了し、現在は自費接種になります。それぞれの医療機関で価格（1万～2万円程度）が異なるため、必要な費用については確認が必要です。

また、先日の報道によれば、10月から定期接種（B類）が始まることが決まりました。対象となるのは65歳上の方と60～64歳で心臓、腎臓または呼吸器の機能に障害があり、身の回りの生活が極度に制限される方、ヒト免疫不全ウイルス（HIV）による免疫の機能の障害があり日常生活が困難な方で、重症化予防を目的に、年1回接種を受けます。自己負担額は自治体によって異なりますが、最大7000円となるよう、国が接種1回当たり8300円を各自治体に助成します。ワクチンにはJN.1や、それに近い系統の変異株に対応したものが使われる見込みです。一方、各自治体が定めた期間外の接種や、対象外の人の場合は原則全額自費の任意接種となります。

<https://www.mhlw.go.jp/content/10906000/001226290.pdf>



第11波といわれる新型コロナウイルスの流行で、患者が増えている発熱外来＝福岡市博多区で2024年7月5日、全澤稔撮影

治療については？

米国立衛生研究所（NIH）の治療ガイドラインにはまだ含まれているものの、ラゲブリオ（モルヌピラビル）については欧州の臨床試験にてリスクのある成人患者の入院や死亡の減少につながらなかったとして否定的な評価もあります。

[https://www.thelancet.com/journals/lancet/article/PIIS0140-6736\(22\)02597-1/fulltext](https://www.thelancet.com/journals/lancet/article/PIIS0140-6736(22)02597-1/fulltext)

パキロビッドパック（パクスロビド）は、内服している薬剤が多いと相互作用の懸念があるため処方しにくいところもありますが、現在も高齢、糖尿病などリスクのある患者さんには処方することがあります。

<https://www.covid19treatmentguidelines.nih.gov/>

会合の際に注意することは

ではお盆休みなど、大勢の人が集まる場合はどのような点に注意すればいいのでしょうか。症状がある場合でも、互いにマスクをして5分など短い時間で切り上げることを前提にすれば、対面の会合も可能だと思います。医療機関でも、コロナウイルスに感染した患者さんと医療者が互いにサージカルマスクをつけて短時間、会話することはあります。

ただ、症状がある方が食事や飲み会に参加すると、マスクを外して会話する機会が増えるため、どうしてもエアロゾルが広がってしまう可能性が高まり、危険です。参加者どうしで、せき・のどの痛み・発熱などの症状があった場合には、参加をやめるという方針を事前に確認しておきましょう。